



No. 25
2008 Winter

山松舎
寺南臨

を見抜き、英才教育を施しました。三歳で『李崎百詠』を、六歳で『詩経』、『春秋左氏伝』を読みました。

七歳で母と死別

七歳のとき、伊子が四十歳の若さで亡くなります。二人の夫に死別した母は、自らの運命におびえ、道元禅師の行く末を案じていました。権力抗争のはざままで揺れ動くむなしさを語り、出家するよう勧めていました。

道元禅師も母の死を間近に見て無常を感じ、仏教に引かれていきます。母の死の翌年には、仏教の入門書ともいえる世親の『俱舍論』を読了します。

しかし、母の弟の藤原師家は家運再興を図って道元禅師を養子に迎えようとしています。かつて母を利用した同じ手段です。道元禅師はこれを本能的に嫌い、十二歳になったとき一大決心をします。その決心とは――？ 次号の楽しみをさせていただきます。

特集

道元禅師ものがたり

①

美しく優しい母を追慕する思い



お釈迦様の生涯を追った物語も前号

で終わりました。今号から曹洞宗の開

祖・道元禅師の物語が始まります。ご

愛読をお願いいたします。

美女とうたわれ、皇后も夢ではないと

思われていました。

ところが、寿永二年（一一八三）木

曾義仲が都に攻めのぼり、平家一門を

一掃します。十六歳の伊子は義仲に見

初められ妻となります。基房が取り持

ったようです。

義仲は伊子のとりこになり、溺愛し

ます。しかし、そんな幸せも一年と続

きません。頼朝の命を受けた義経の大

軍が押し寄せてきました。その戦いで

義仲は、翌三年（一一八四）近江の粟

津で敗死してしまいます。

三歳で漢詩を読む

基房が次にアプローチしたのが、内大臣の久我通親です。村上天皇の嫡流という名門です。通親は美しさに深みが出た伊子を妻とします。やがて宇治の木幡の基房の別邸で道元禅師を出産します。懐妊したとき、「五百年に一人の大聖人になるであろう」というお告げを聞いたといいます。

父の通親は政治家としてだけでなく、和歌や文章の才能にも恵まれていました。しかし、道元禅師が二歳のとき、五十三歳で急死してしまいます。

父の死後、養父になったのが異母兄の通具です。通具は大納言の要職にあり、新古今和歌集の撰者となるほどの文化人でした。通具は道元禅師の才能



弁財天祈禱会を修します

一月十五日(木)

午前十時から本堂にて



弁財天様は七福神の一人で、言語、知識、音楽をつかさどり、知恵と財福を授けていただけの神様です。当山の弁財天様も、合格祈願、芸能上達、商売繁盛に靈験あらたかと伝えられています。

一月十五日(木)午前十時から、本堂にて弁財天祈禱会を厳修。

『大般若波羅蜜多經』六百卷の五七八「般若理趣分」を転読いたします。

『大般若波羅蜜多經』は、大乘經典の初期に成立した經典です。呪術的な要素を持つ『大般若波羅蜜多經』は、古来より大きな靈力を持つと信じられてきました。ばらばらと転読するだけで、『大般若波羅蜜多經』六百巻をすべて読誦したと同じ功德が得られるといわれています。

先の読めない時代だけに、わが

国が安らかで穏やかでありますよう、世界から戦争や飢えがなくなりますよう——そして、檀信徒の皆様や参詣者の方々の無病息災、家門隆盛、家内安全を祈願し、お札をいただく法要を行います。

甘酒の振る舞いもあります。旧年のあれこれに感謝をささげ、新しい年の幸せを祈るため、ご家族、お友達、お誘い合わせの上お参りください。



寺南景 百景



椽伽林

臨南寺の本堂の正面左側に「椽伽林」という大きな扁額がかかっています。実はこの扁額は二代目で、初代の扁額は東洋文化研究所の書庫に保存されています。それが下の写真の扁額です。焼けたみたいに真っ黒で虫食いもひどいのですが、左の端には「梅峰書」という署名があります。

梅峰とは、当山の二世(二代目住職)になった梅峰竺信禪師のことです。梅峰禪師は、寛永十年(一六三三)大坂に生まれました。宇治の興聖寺の住職を務めたり、水戸光圀公に招かれたりしましたが、貞享元年(一六八四)臨南寺の住職になり、当山の発展に尽くしました。



その頃、臨南寺には椽伽林という学寮がありました。江戸には梅檀林という学寮があり、「東の梅檀林、西の椽伽林」と並び称されました。梅檀林はのちに駒澤大学となりました。椽伽林では經典の印刷も行われたようで、版木も多く残されています。前住職の渡邊剛毅方丈が東洋文化研究所を設けられたのも、椽伽林の再興を夢見られたのかもしれませんが。

死ぬる時節には 死ぬがよく候

これは良寛禅師が七十歳頃に書いた手紙にある言葉です。新潟地方に大地震があり、何千人もの死傷者が出ました。そのとき親戚に送った見舞い状の一節です。

災難に逢ふ時節には災難に逢ふがよく候。

死ぬる時節には死ぬがよく候。

是はこれ災難をのがるる妙法にて候。

何か悪いことが起こったときは、それから逃げようとせず受け入れて、むしろそこに新しい意味や新しい喜びを見出そうとすると、前向きな気持ちになり心の余裕さえ生まれます。良寛禅師はそれを勧めているのでしよう。

先日行われたマトリ合同法要では、「ガンが病気じゃなくなったとき」と題して、ご主人をガンで亡くされた岩崎順子さんに講演していただきました。ご主人の病気や死は受け入れがたいことですが、苦しい闘病と悲しい死の果てに、当たり前前のありがたさ、生きることの意味を感得されたさまが聞く者の心を打ちました。

裏を見せ 表を見せて 散る紅葉

良寛



臨南寺 住職

大澤正道

臨南寺行事予定 (1~3月)

○ 弁財天祈禱会 (本堂)

一月十五日(木) 午前十時~十一時
新しい年が安らかでありますように、皆様の厄を払い、福を招く法要を行います。温かい甘酒の振る舞いもごさいます。誘い合わせてお参りください。



○ 春季彼岸会施食会 (本堂)

ひがんえせじきえ
三月二十三日(月) 午後一時~三時
受付は二時半まで

お彼岸は大自然とご先祖様に感謝する大事な期間です。家族そろってお墓に参り、ご先祖様をしのび、自分が今あることに感謝いたしましょう。

* 一月一日~三日は、寺務所は閉めさせていただきます。
ただきます。

線香、ろうそくは、本堂前で販売しております。

* 一月の早朝坐禅会はお休みです。

毎月第一土曜日に行っております早朝坐禅会は、一月はお休みさせていただきます。

墓苑をご利用の皆様へ お願い



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しくたさい。



- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。



- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。



- トイレにオムツを流さないでください。



- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。



早朝坐禅会に参加して半年 植出 増司さん

私は胃がんのため胃の全摘手術を受けており、傍目にはわからないと思いますが、いつも体調が良いとは言えません。そこで、何か体に良いことをやってみようと思い、半年前から始めた坐禅。でも、私のような者が続けられるか、とても不安でした。

最初は、日常生活にはない姿勢なので、坐禅の時間がとても長く感じられました。坐禅中はJR電車の走る音や鳩の鳴き声などが耳に入ってきました。時には蚊との戦いもあり、坐禅の終了を告げる抽解鐘はまだかまだかと待ち続け、鐘二声でホッとしていました。

しかし、最近は坐る時間も短く感じられるようになりました。坐禅の後の法話も楽しみです。お話いただいた言葉を通勤電車でも思い出し、自分の言動と比較したりしています。



写経会に励まされて

木村 波子さん

お写経をしようと思ったのは、夫が亡くなって三ヶ月過ぎた頃でした。夫は「百歳以上生きたい」と言っていたのに、七十四歳の若さで旅立ったのです。それまでは忙しさに追われる日々の私でしたのに、しばらくは暇のような、侘しいような、妙な気持ちで過ごしていました。

春のお彼岸に、お写経を始めようと決心して参りました。しかし、最初の二行を書いてうろたえました。あまりにも下手な字だったのです。回を重ねてきましたけれど、いまだに上達は見られず、精神を統一することもできていません。

でも、通う道すがらの緑や清い空気に励まされています。夫の供養にと始めましたが、実は私自身のためになつていっているのでは……と感じているこの頃です。ありがとうございます。

マトリ合同法要

講演に心が揺さぶられました

十二月九日(日)午後二時から、がつし
よう園マトリの合同法要が営まれました。
今回は、「ガンが病気じゃなくなったとき」という講演です。講師は岩崎順子さん。
ご主人をガンで亡くされたときの闘病生活の大変さと三人の子どもや両親など家族の絆の大切さを淡々とお話されました。「いやなことにもいやな人にも意味がある」「人間は生きているんやない、生かされているんや」——亡くなるまで子どもに生き様を見せ続けたご主人と岩崎さんの姿に、感動の波が本堂を静かに包みました。

講演を聴いたあと、マトリで読経が流れるなかそれぞれのご霊牌に手を合わせさせていただきました。お墓の継承者がいなくなつても供養してもらえるマトリへの入会が、年々増えています。



お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日

午前六時半〜 本堂にて

*二月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後四時
写経料・千円

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時〜

*二月・八月は、お休みさせていただきます。

*いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

11月の早朝坐禅会に参加しました。寒くなりふとんから抜け出すのが大変でしたが、本堂にはすでに15人以上の方がお集まりでした。坐禅と法話を味わいながら、気持ちのよい一日を過ごし、早寝早起きのよさを実感しました。記事のご感想をお寄せください。(M)

「ほ〜っと」25号

平成20年12月

編集・発行： 椋伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com